

令和4年度採用職員インタビュー

今回は別府市在住の学生が令和4年度採用のフレッシュな職員3名にインタビューを行いました！

▷インタビューの紹介◁



▷別府の好きなところ◁
まずはやっぱり**温泉**です。小さい頃から家族や友人との旅行で何度も訪れた思い出の地です。また、多様性を重要視しているだけあって、小さい子からお年寄りの方や外国の方、障がいのある方**全員が過ごしやすい街づくり**をしているのも魅力的です。

▷別府の好きなところ◁
自然の恵み豊かでありながら人との交流も盛んなところです。海も山も温泉も、美味しいものもあって、海外留学生や移住者がたくさんいる国際的な町は珍しいと思います。そんな**オリジナリティに溢れている別府**が大好きです。



▷別府の好きなところ◁
面白いこと(変わったこと)が大好きな人が多いところです。新しいものを取り入れたり、「面白いこと」を通して**年齢関係なく交流できる風土**は別府ならではの、毎日**が楽しくなる秘訣**だと思います。



まずは、別府市職員として働く以前の活動や思いについてお伺いしました。

Q1. 就職先として別府市を選んだ理由はなんで すか？

安達さん

色んな自治体を見ている中で、別府市は特殊な街だと思いました。観光PR動画も話題になったり、長野市長が色んな行動を起こされているのを見て、面白いこと、新しいことができるのではないかと思います。また、デジタルファースト運動や外国人と触れ合う機会の多さに前職と通じるものを感じました。新しいことに挑戦して、自分も成長しつつ街も豊かにしていきたいです。

竹本さん

生まれ育ちが別府市で、沢山の地域の方々に支えられてきて、幼い頃から必ず別府市に貢献しようという思いを持っていました。支えてもらう立場から、職員になって別府市の皆さんを支える側になったときに見える景色はまた違うのではないかと思います。幼い頃から人々の優しさに触れ、自分もそんな風になりたいと思いました。

古川さん

4年間の大学生活を別府市で過ごし、地域の人の優しさと面白いことが好きな人が多いところに魅力を感じたのと、お世話になった人に恩返しをできたらな、と思い別府に就職しました。また、人の幸せをつくる仕事に携わりたいと考えていて、行政の「分け隔てなくすべての人の生活を支えること」を最終的なゴールとしている点が自分の目標と一致すると思い市職員として勤めることにしました。



インタビュアー

みなさんのお話を聞いて、別府は優しさと好奇心に溢れた人が多いと感じました！突飛なことでも、別府では「やってみよう！」と前向きに行動に移せる環境があるという意見を聞き、挑戦したい人にうってつけですね！

Q2. 学生時代はどのような活動をしていましたか？またそこから現在に活かしている学びはなんですか？

安達さん

一番経験になったのは4年間焼肉店でアルバイトをしたことです。だんだんとお客さんが期待するものを考え、料理の待ち時間に一声かけるなどささいな気遣いを意識できるようになりました。何が求められているかを理解できるようになったことは今に活かしていると思います。また、店長に自ら考えを提案し実現したという経験は面白かったです。さらに、外国人のお客さんも多く、その中で英語がうまくなりたいという思いも芽生えました。

市職員になって大事だなと思ったことは「相手を思いやる気持ち」です。アルバイトで学びましたが、丁寧に優しく伝える姿勢を取られて嫌な気持ちになる人はいないと思います。市の職員の対応の仕方が市全体のイメージに繋がってしまいます。思いやりを持つことで、市には素敵な人がいるんだな、と魅力に思ってくださいの方が増えると思います。



竹本さん

国際交流とアートにチャレンジをしていました。海外に興味があり、異文化を知るために色んな方とお話をすることを意識していました。その中で、今の仕事に繋がっていると思うのが、自分の意見をはっきり伝えることだけではなく、相手の言っていることをきちんと理解する姿勢を学んだことです。また、アートは個人の活動が多かったのですが現在は地域の方と一緒に取り組む活動も増えて充実しています。

ありのままで好きなことを追求しながら、自分が将来どういうことができるのかアイデアを培っていくことが大切だと思っています。採用試験を受けるときも、型にはまらず自分の好きなことや思いを語ることでうまくいきました。自分の心に正直にチャレンジしていくことで成長できました。

古川さん

最も力を入れた活動は、食品ロスと食の貧困に関する学生団体を立ち上げたことです。社会

課題の解決には、**地域の人々にも課題意識を持ってもらうことが大切だ**という思いがあったので、他大学や社会人の方を巻き込んで活動を行っていました。他にも市民団体やサークル活動を通して地域の人と繋がりを持つことを意識していました。

学生時代から大切だと思っていることは3つあります。1つ目に「**経験を積むこと**」です。地域の人との他愛のない会話でも自分の知らない世界に触れることができました。沢山の経験が視野を広げてくれました。2つ目に「**社会に何が起きているか知ること**」です。特に新聞は色々な情報が詰まっていて、日本だけではない世界の動きを知ることができます。何が起きているか情報収集して考えることに意味があります。最後に「**今の当たり前を疑ってみる**」ことです。この考え方は自身の可能性を広げてくれます。

皆さん、それぞれ異なるバックグラウンドをお持ちですが、自分の意思を持って積極的に活動されていたことが伺えました！それでは、現在のお仕事への思いも聞いていきましょう！

Q3. 現在担当しているお仕事について教えてください。

安達さん

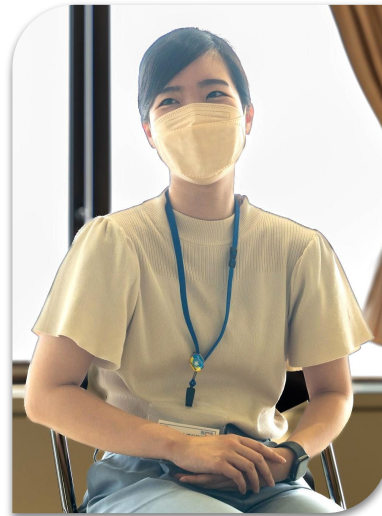
職員課の給与厚生係で給与の管理や様々な手当の申請を受け付けて、支給するなどの市職員に関わる業務を行っています。**新採用者から退職者まで幅広く関わっています。**

業務をする上で会計の知識があったほうが楽になるとは思いますが、入ってから先輩方が教えてくれたり、研修もあるのであまり心配ないかと思っています。自分も最初は会計関連で間違えたこともありましたが、何よりも**先輩がフォローをしてくださりました**。間違いが逆に学びとなり、当初に比べると今はできることが増えてやりがいを感じています。また、職員相手に多岐に渡る相談を受け付けますが、その際に問題なく説明できたときに成長を実感します。

竹本さん

介護保険課の管理係で、介護保険料の相談対応と事務処理を行っています。支払いは65歳以上の方が対象で、払い方がわからない方がいたり、還付金詐欺などのトラブルもあるため、確実に伝わるように説明することが大切になってきます。文字が読みにくかったり、耳の聞こえ

づらい方もいらっしゃるので、伝わっているか**意思確認を心がけて対応**しています。



来庁される方の中には、様々な事情で介護の認定が受けられなかったり、生活の厳しさを訴えられる方がいらっしゃいます。そのような方々の不安を解消しようと奮闘していますが、現に課題があり心苦しいときもあります。

しかし、**相手のお話をきちんと聞いて状況を理解し、一緒に考える**ことで安心感を与えたり、その環境下でできることを提案してお助けする努力をしています。市民のリアルな状況に触れられるので、親身に職員からサポートをして「**ありがとう**」という言葉をいただくとモチベーションに繋がります。

古川さん

産業政策課のツーリズムバレー推進係として起業・創業の支援を行っています。別府市で起業したい方に向けて資金面の補助や、創業のサポートをしている事業者・イベントの紹介などをしており、新しいことに挑戦する方々を応援しています。また就労支援も行っており、合同企業説明会を企画するなど、就活生が別府市内で就職する働きかけを行っています。

産業政策課は**縁の下の力持ち**の存在だと私は思っていて、「市民が輝くためにはどうすればよいか」を考え、サポートする役割を担っていると思います。実際に開業前に相談に来られた方が開業すると、直接的なお手伝いをしたわけではないですが、様々な業種の事業者が頑張っている様子を陰ながら見て、やりがいに繋がっています。



一方で、平等性を保つことの難しさを感じています。相談に来られた方に等しい情報を伝えなければいけないため言いたくても聞かれたことに対して言えないことがあるのが難しく感じています。

インタビューー

みなさんお仕事の中で難しさを感じられている場面もありながらも、その中で学んだり、やりがいを感じたりと、自分の仕事に真摯に向き合いながら成長されているなど感じました。

Q4. 別府市役所で働く職員の方々の雰囲気はどのように感じていますか？

三部署の共通点

職員同士のコミュニケーションが多く、時には笑い声が聞こえるくらい楽しそうに仕事をしている雰囲気があります。わからないところがあっても優しく先輩などが教えてくれたり、年齢関係なしに話しかけてくれます。また皆さん別府愛が大きい人が多いので、業務以外にも新しいお店の話やイベントなど様々な話をしやすい雰囲気があります。また先輩との会話を通して経験を知ることができ勉強になります。



学生時代に参加した別府市でのイベントで気づいた、職員に対する印象を古川さんからお聞きすることができました。

古川さん

私は別府市主催のビジネスプランコンテストに学生として参加したときに、市の職員の方たちが楽しそうにお仕事されているところが印象的だったので、職員への堅苦しいイメージはなく楽しそうな雰囲気を感じていました。

インタビューー

私自身、市の職員は真面目に業務をコツコツこなしているイメージがあったのでお三方の職場での雰囲気を聞いて考え方をアップデートすること

ができました。部署内でのコミュニケーションが多い分、風通しの良い組織のように感じました！



Q5. 別府市で働くことの魅力は何ですか？

安達さん

一番の魅力は人の良さです。前職の関係で上の役職の人は厳しいイメージありましたが、市役所の中では全く感じていません。配属時の研修で長野市長と対談させていただき、上の方を身近に感じています。親身になって話して下さる方が多いと感じています。

竹本さん

実際入ってみると、色々チャレンジしている人が多く、私が思い描いていた堅苦しいイメージとは全く違いました。私がやりたかったことを先輩方はやっていたり、自分らしさを発揮できる場所だなどと思います。プライベートでも、別府市職員であると同時に、別府市民でもある方が多いことも魅力です。

古川さん

私自身仕事を通して様々な立場の方と関わる機会が多いので、そこからいつも新しい視点を学ぶことができます。職員の方々からも別府の新しい情報を教えていただいたり、会話を通して見聞を深めています。

最後に、別府市職員として働くことに興味を持っている方々へ、メッセージをお願いします。

竹本さん

職員の方々は、型にはまらず自分の感性や自分らしさを尊重し、魅力を伸ばしてくれる方たちなので安心して成長できます。学生生活は好きなことに打ち込み、社会人のときには見える世界の違いを恐れず頑張ってください！

古川さん

別府市職員は、部署が変わると転職並みに環境が変わるので興味の幅が広い人にとっていい環境だと思います！学生のうちに色々な経験をして将来にどのように繋がるか考えて学生生活を過ごしてほしいです！



安達さん

職場自体明るく面白く楽しい環境です。その中で働く上で自分自身がやりがいだけでなく楽しむ事を忘れずにいてほしいです！そして職員になる前に、別府に来て別府の魅力を知ってください！

インタビューからのコメント

柏：

市役所の職員の方は業務を堅実にこなすという堅苦しい印象がありましたが、職員同士会話が楽しく楽しみながら働かれている印象を持ちました。楽しさ、やりがいを大切にされている事を知り、私にとっても新たな知見を得られるインタビューとなりました。

泉谷：

みなさんがそれぞれ志を持ってお仕事されている姿を知り、別府市職員の方々をより魅力的に感じることができました。「面白さ」や「チャレンジ」を自分も大切にしていきたいと、自分にとっても学びとなる時間を過ごさせていただくことができました。



インタビュー紹介

柏 和篤 泉谷 早紀
HENNGE株式会社でインターン中の、立命館アジア太平洋大学生。学生目線で別府市の魅力を伝えようとインタビューを企画し、別府市職員へ素直な疑問を投げかけた。

※別府市とHENNGE(株)は、相互の連携を図るために、『別府ツーリズムバレー構想推進に関する包括連携協定書』を締結しています。この協定の下、別府市の起業・創業等の推進、人財育成、ヒト・企業とのつながり強化、その他施策との連携に関する事項について、協力体制を結んでいます。